

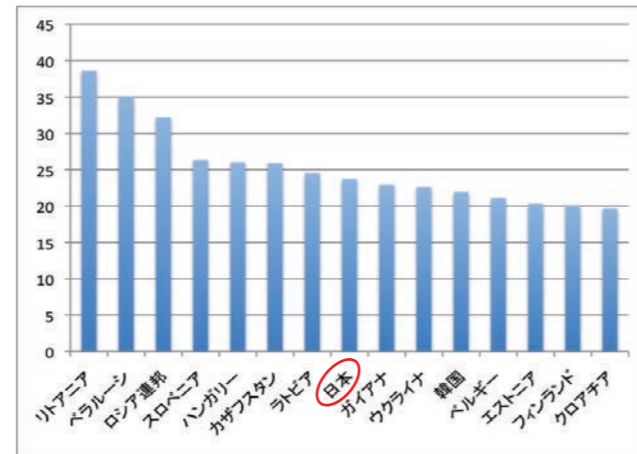
# 欲求5段階説に基づいた心が癒える図書館の設計

1170130 富家真弓  
 景観デザイン研究室  
 指導教員：重山陽一郎

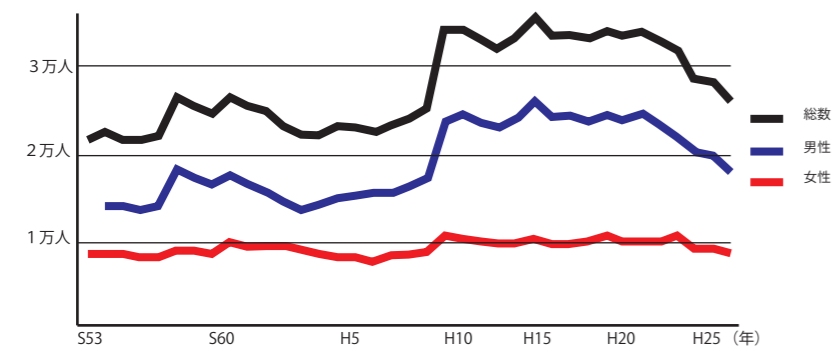
## 背景

平成27年、日本で1年間に自殺した人の数は、約2万4千人。これは、だいたい1日あたり65人、22分間に1人が自殺していることになる。世界的にも、日本の自殺率は圧倒的に高くアメリカの2倍、イギリスの3倍と言われている。

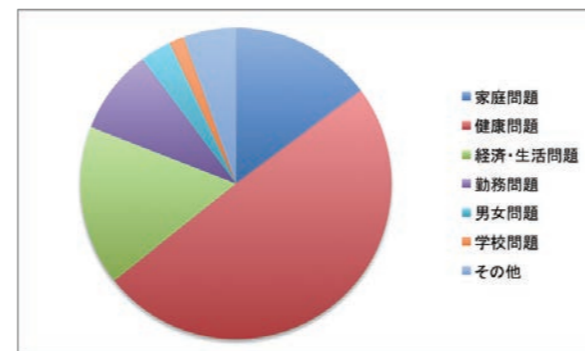
判明している自殺原因のうち、最も多いのが、うつ病や統合失調症などの精神疾患だ。これらの精神的問題を物質的建築で解決することにチャレンジした。



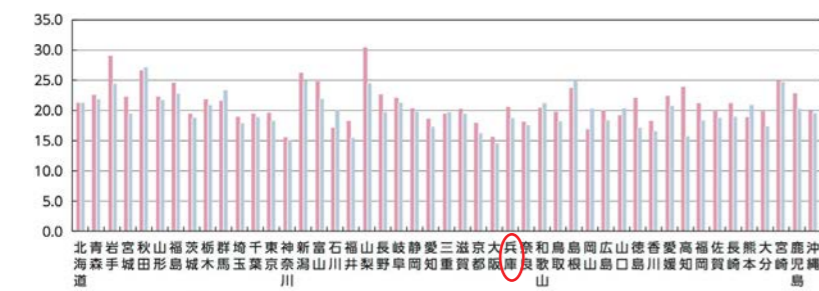
グラフ1. 国際自殺死亡率比較 (H21)



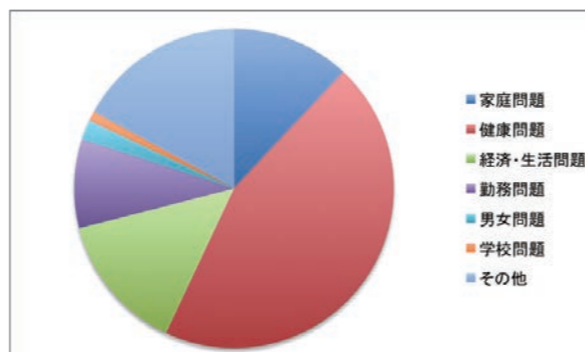
グラフ2. 日本の自殺者数 年次推移



グラフ4. 全国自殺原因・動機



グラフ3. 都道府県別自殺死亡率



グラフ5. 兵庫県自殺原因・動機

## コンセプト

2つの点から図書館を設計することにした。

1つ目は、図書館の司書さんには、利用者に関する守秘義務があることだ。

誰が、いつ、どんな本を借りたか等の情報を第三者に伝えることは、基本的に禁止されている。学校や会社に行けず、家に居られない人が図書館へ行っても注意されることも告げ口されることも無いと考えられる。ある意味、図書館は、逃げ場として利用できる数少ない建物と言えるだろう。

2つ目は、図書館には、多種多様な本があること。悩みや不安の原因を解決できる方法や知識を得ることが可能だ。また、エッセイや自伝などで、同じ悩みを抱えている人が多くいることに気づくことにもなると思う。

これら2点から図書館を設計することに決めた。

私は、悩みや不安等は、人が無意識に抱く欲求が原因だと考え、マズローの欲求5段階説に着目した。欲求5段階説とは、人間の欲求を①生理的欲求②安全欲求③社会的欲求④尊厳欲求⑤自己実現欲求の5つに分け、理論化したものだ。この5つの欲求をそれぞれ満たせば、悩みや不安も緩和され、自殺者の減少に繋がるとする。

## 敷地

兵庫県神戸市須磨区大津江



図1. 敷地地図



図2. 敷地現状写真



図3. 敷地現状写真

神戸市営地下鉄妙法寺駅から徒歩5分ほどに位置し、頭上には阪神高速31号神戸山手線が走っている。昔からベッタタウンとして利用され、年々マンションが増えており、現在も大きな住宅地を建設中でそれに伴い道路工事も活発に行われている。

基本的な人間関係の場を学校や会社とし、様々な悩みや不満の発生場所と考える。また、本当は居心地のいい家も悩みや不満を家族に相談できず、学校や仕事を休み平日の昼間から家に居ることが難しいと考えた。そんな時、学校・会社や家に代わる第三の場所を提案したく、住宅地と通勤・通学に利用する駅の間位置するこの敷地を選定した。



図4. 敷地周辺地図

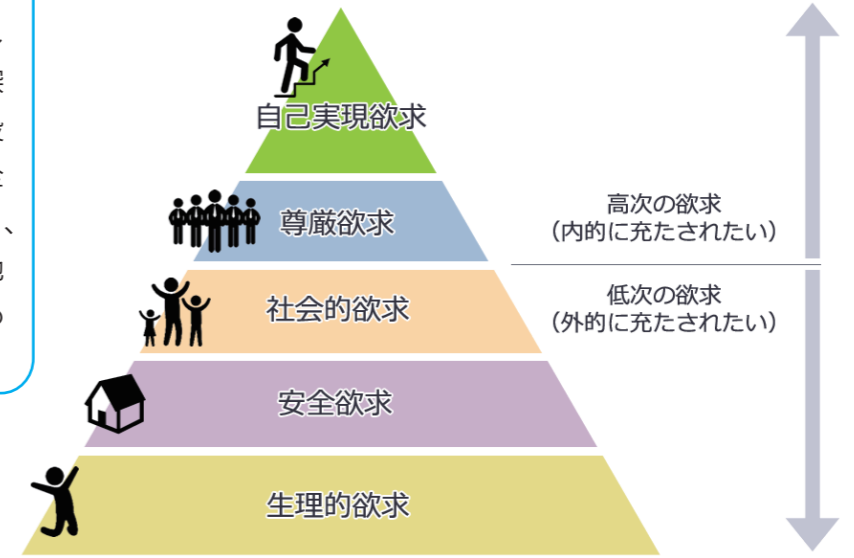


### 生理的欲求を満たす空間

図書館の南側中央の床から3mほどの高さに位置するカフェスペース。空腹を満たすための空間となっている。このカフェスペースは、キッチンとカウンター4席の最小限の空間であるが、このカフェスペースから学習スペースの屋根部分に降りることができ床から2mの非日常的な視線を楽しみながら飲食が可能になっている。



尊厳欲求を満たす空間  
広々とした空間では、なく小さな狭い空間で、集中し勉強に励むことで知識を深め、能力を高めることに役立つ。周りの環境から完全に隔離されるわけではなく、大きな開口から音などで他人を感じながら自分を高めていく空間。



#### ① 生理的欲求

食事・睡眠など本能的な欲求。  
一般的な動物がこのレベルを超えることはない。  
通常健康な人間は、即座に次の欲求が出現する。

#### ② 安全欲求

安全性・経済的安全性・良い健康状態の維持・良い暮らしの水準・事故防止、保証の強固さなど秩序だった状態を得ようとする欲求。  
この欲求がはっきり見られるのは、脅威や危険に対する反応を全く抑制しない幼児。

#### ③ 社会的欲求

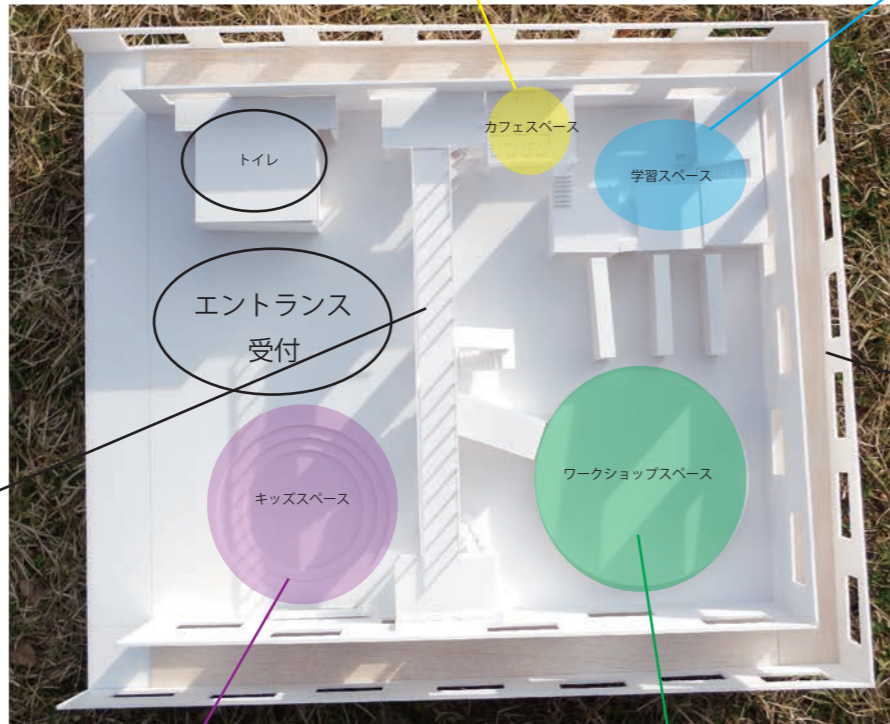
先進国に暮らす人々には、この欲求が生きる課題となっている。  
自分が必要とされている・役割があるという感覚。  
他者に受け入れられている、どこかに所属しているという感覚。  
孤独・追放・拒否・無縁状態であることの痛恨をひどく感じるようになる。

#### ④ 尊厳 (承認) 欲求

自分が集団から価値ある存在と認められ、尊重されることを求める  
尊重のレベルには、二つあり、低いレベルの尊重欲求は、他者からの尊敬、地位への渴望、名声・利権・注目を得ることによって満たされる。  
マズローは、この低いレベルに留まることは危険だとしている。  
高いレベルの尊重欲求は、自己尊重感、技術や能力の習得、自己信頼感、自立性などを得られることで満たされ、他者からの評価より自分自身の評価が重視される。  
この欲求が妨害されると、劣等感や無力感が生じる。

#### ⑤ 自己実現欲求

以上四つの欲求が満たされていたとしても、人は自分に適したことをしていない限り、すぐに新しい不満が生じて落ち着かなくなる。  
自分の持つ能力や可能性を最大限発揮し、具現化したいという欲求。



### 社会的欲求と自己実現欲求を満たす空間

図書館内の北東に位置する、床から1mほど高くなった部分。近隣住民・利用者主体のワークショップを行うスペースとする。日替わりで様々なワークショップを行うことで、多種多様なメンバーが一つの趣味を理由に集う。活動の中で、生徒役となる人たちは、「社会的欲求」が満たされると考える。  
また、先生役となる人は、人に教え、自分の中の情報や考えをアウトプットすることで、より自分に必要なことが見え、「自己実現欲求」を満たすことに近くのでは、ないかと考える。



### 安全欲求を満たす空間

安全欲求を満たすキッズスペース  
脅威や危機への反応が顕著な幼児のためのスペース。  
死角の無い円形スペースで保護者に見守られながら安心して遊ぶことが可能。また、保護者もただ見守るだけでなく、段差を利用し、ゆっくりと読書することが可能。

